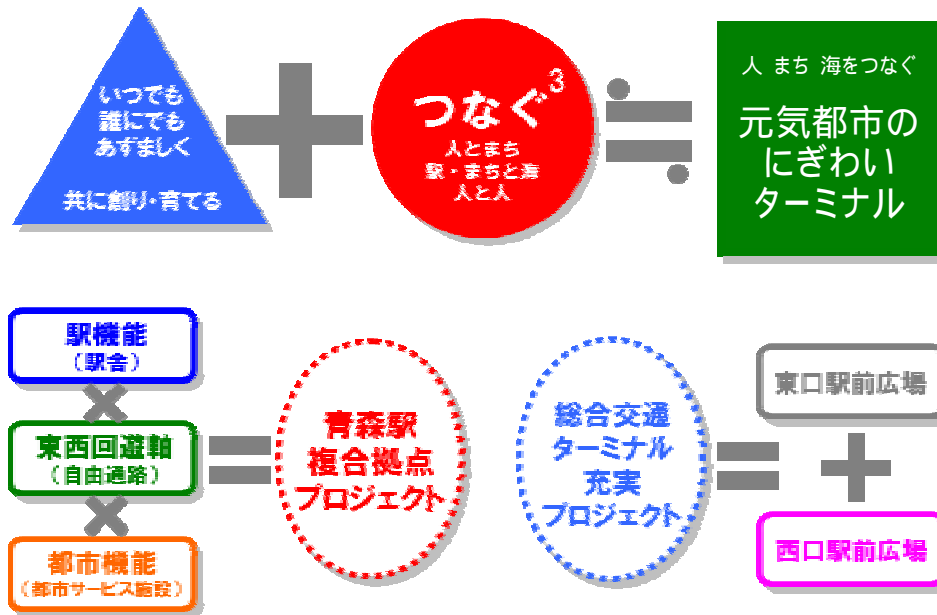


第1回青森駅を中心としたまちづくり有識者会議

青森駅を中心としたまちづくり 基本計画について



H27.1.28

なぜ、いま 青森駅を中心とした まちづくりなのか

まちづくりの節目

- 1891年 東北線上野・青森間全線開通
- 1905年 奥羽線福島・青森間全線開通
- 1908年 青函連絡船就航
- 1959年 現青森駅舎新築
- 1986年 駅ビル「ラビナ」オープン
- 1987年 東日本旅客鉄道株発足
- 1988年 青函連絡船廃止・津軽海峡線開業
- 2001年 駅前再開発事業「アウガ」オープン
- 2010年 東北新幹線・青い森鉄道線全線開業
- A-FACTORYオープン
- 2011年 「ねぶたの家ワ・ラッセ」オープン



約120年



まちづくりの節目

- 2015年 北海道新幹線新函館北斗開業

基本計画の目標・役割

- 平成27年度(北海道新幹線新函館北斗開業時)を中期目標
- 青森駅及び駅周辺地区の一体的なまちづくりを推進し鉄道・都市施設の整備に基本方向を示す。



青森駅周辺地区に 何が求められているか

これからの社会環境の変化

- 人口減少の進展
H21年:302千人 H32年:270千人
- 少子高齢化の進展
【65歳以上人口】
H21年:23% 10年後:31%
- まちの中心部の衰退
- 価値観やニーズ・活動の多様化
- 交通環境の変化

地域活力
の低下懸念

10年後は
3人に1人が
高齢者に

これからのまちづくりに求められること

集約型都市構造

- 無秩序な都市拡散を抑制し、公共交通ネットワークが充実したまちづくり
- にぎわいがあり、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり



安全・安心なユニバーサル社会

子育て期・高齢期をより豊かに暮らせるまちづくり 豪雪など災害に強いまちづくり など

観光立国、地球温暖化対策、街なか居住、新しい公共など

青森市のまちづくりの考え方

人と環境にやさしい コンパクトシティ

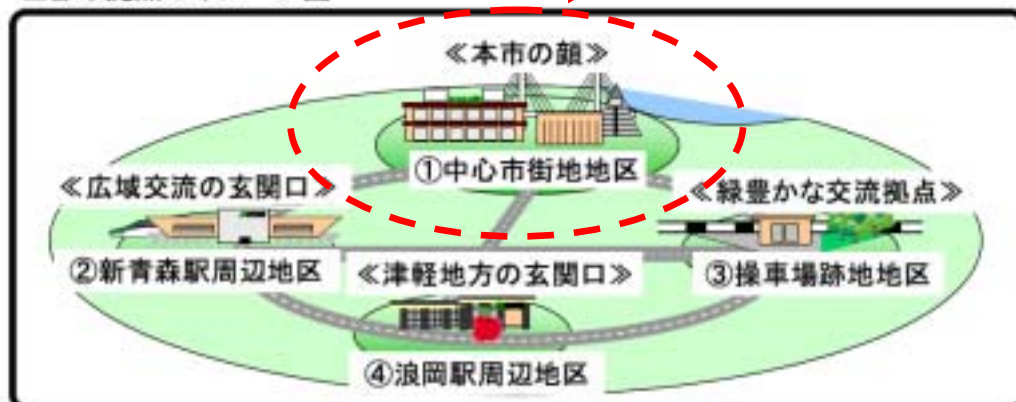
都市の核である中心市街地地区をはじめとする都市拠点や、日常生活の拠点である各地域それぞれが地域特性に応じた機能を分担する、バランスのとれたコンパクトなまちづくりを進めるとともに、それぞれの拠点を交通ネットワークでつなぎ相互の連携強化を推進します。

(新青森市総合計画基本構想)

各拠点を交通ネットワークでつなぎ相互の連携強化



■都市拠点のイメージ図



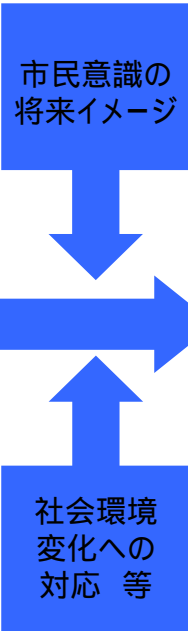
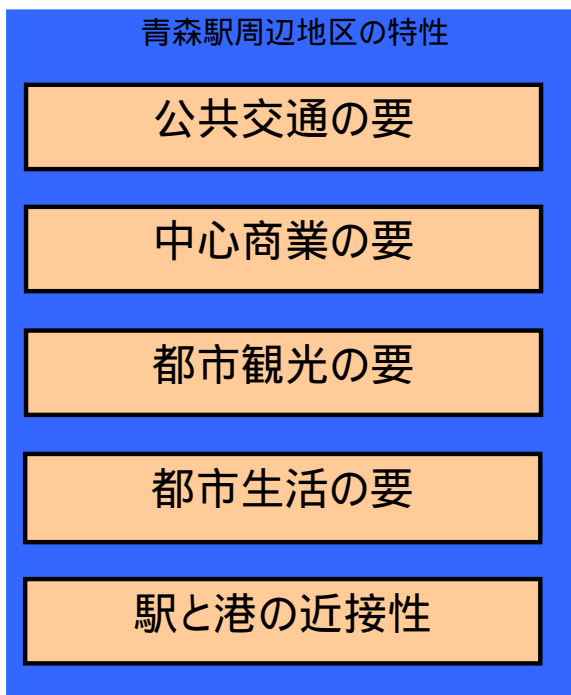
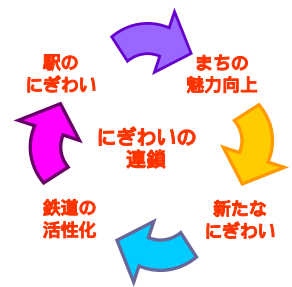
青森駅周辺地区の現況



駅周辺地区の将来像

～ 青函の歴史を伝え鉄道と街を育み 市民の心を元気に～
あおもり 駅まえ 街なか ルネサンス(再生)

鉄道とまちのにぎわいの
正のスパイラル化



- 市内各所へのアクセスの良さをいかした
「交通の要となるまち」
- 青森駅と周辺の都市機能が融合した、
市民や来訪者が「交流するまち」
- 駅・まち・海の魅力がひとつにつながり憩える
「居心地のよいまち」
- 多様な商業・観光・市民活動が行われ、
「活気とにぎわいのある楽しいまち」
- 青森の顔として歴史をいかし多彩な文化が集まり、
「魅力を発信するまち」

青森駅を中心としたまちづくりの 基本的な考え方は

まちづくりの基本方針

視点

いつでも誰にでもあずましく

青森市民・来訪者すべてにあずましい空間の創出

市民・青森への来訪者が多く集まる拠点として、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化を進め、青森らしい空間創出に向けた景観形成や地球環境への配慮等により、すべてのひとに**あずましい空間を創出**する。

共に創り・育てる

多様なまちづくり主体の連携・協働

駅周辺地区活性化の開発インパクトを周辺へと波及させ、にぎわいを継続的に創出するため、市民、事業者、行政、NPOなど、**まちづくりに係わる多様な主体の連携・協働**を図り、持続的に発展していくまちづくりの実現を目指す。

戦略

人とまちをつなぐ

駅を含めたエントランス空間の再構築

コンパクトシティの要としての都心機能強化を図るため、青森駅を街なか再生の装置の一つとしてとらえ、駅を中心とした複合都心核の形成と、都市内の総合交通ターミナルの充実を図ることにより、ウォーターフロント・東口・西口周辺地区を一体化する**エントランス空間を再構築**する。

駅・まちと海をつなぐ

駅・商店街・海を結ぶ回遊・連携軸の強化

駅・商店街・ウォーターフロントが一体となった魅力向上のため、東西市街地の連絡性の向上や地区内に集積する都市機能を結ぶ快適な回遊ルート形成により、交流、にぎわい、憩い等の多彩な魅力をつなぐ**回遊・連携軸を強化**する。

人と人をつなぐ

新たな魅力を創出する都市機能の強化

来訪者に様々なサービスを提供しにぎわいを継続的に創出して周辺への波及効果を高めるため、市民、企業、行政がエントランス空間の再構築、ネットワークの形成などをいかながら、交流・連携に向けた**様々なサービスを充実**していく。

まちづくりの空間構成

駅と周辺の拠点施設・空間をつなぐ
交通と交通の流れをつなぐ
市民と市民、市民と来訪者の心をつなぐ

これまでの駅周辺地区



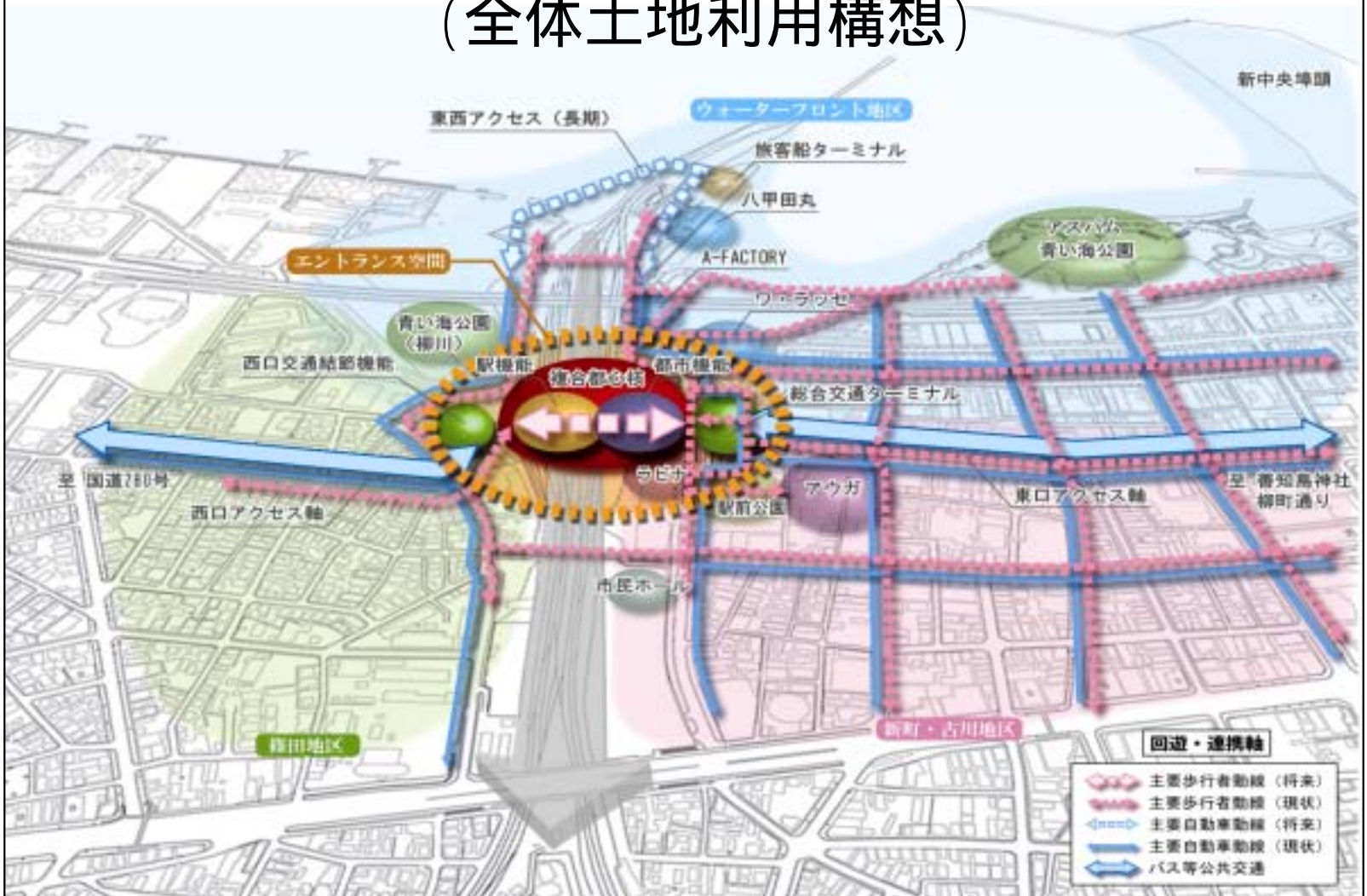
将来の駅周辺地区



まちの求心力を高める複合都心核の形成
複合都心核を中心とした歩行者・自動車ネットワークを形成

まちづくり基本構想

(全体土地利用構想)



どのように まちづくりを進めていくのか

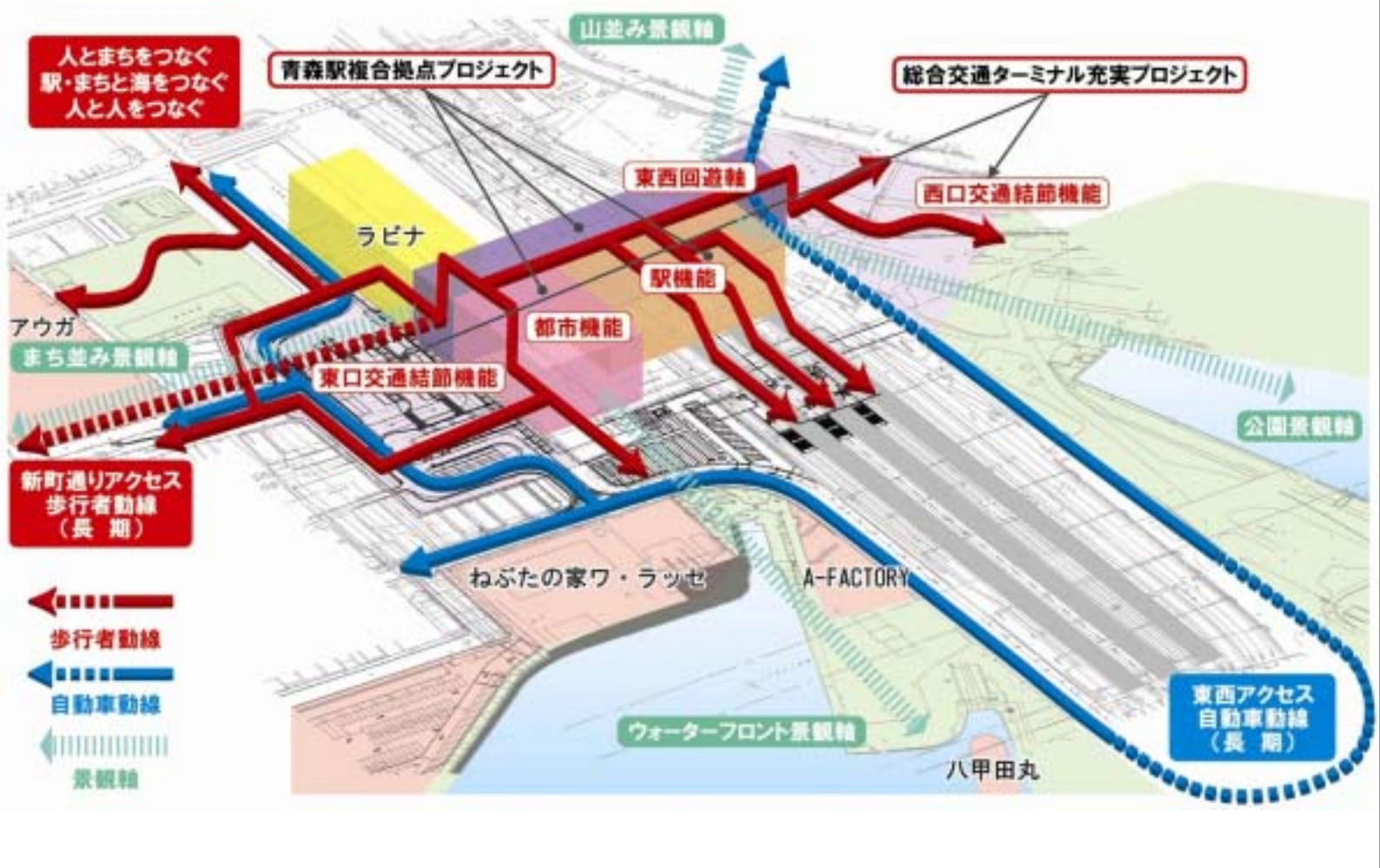
エントランス地区整備の方向性

人 まち 海をつなぐ
元気都市のにぎわいターミナル

- 様々なものを「つなぐ」空間構成
- 相乗効果を生み出す一体的なまちづくり
- 本市固有の特性や環境への配慮
- 地区特性に応じた機能分担



重点プロジェクト・機能連携のイメージ

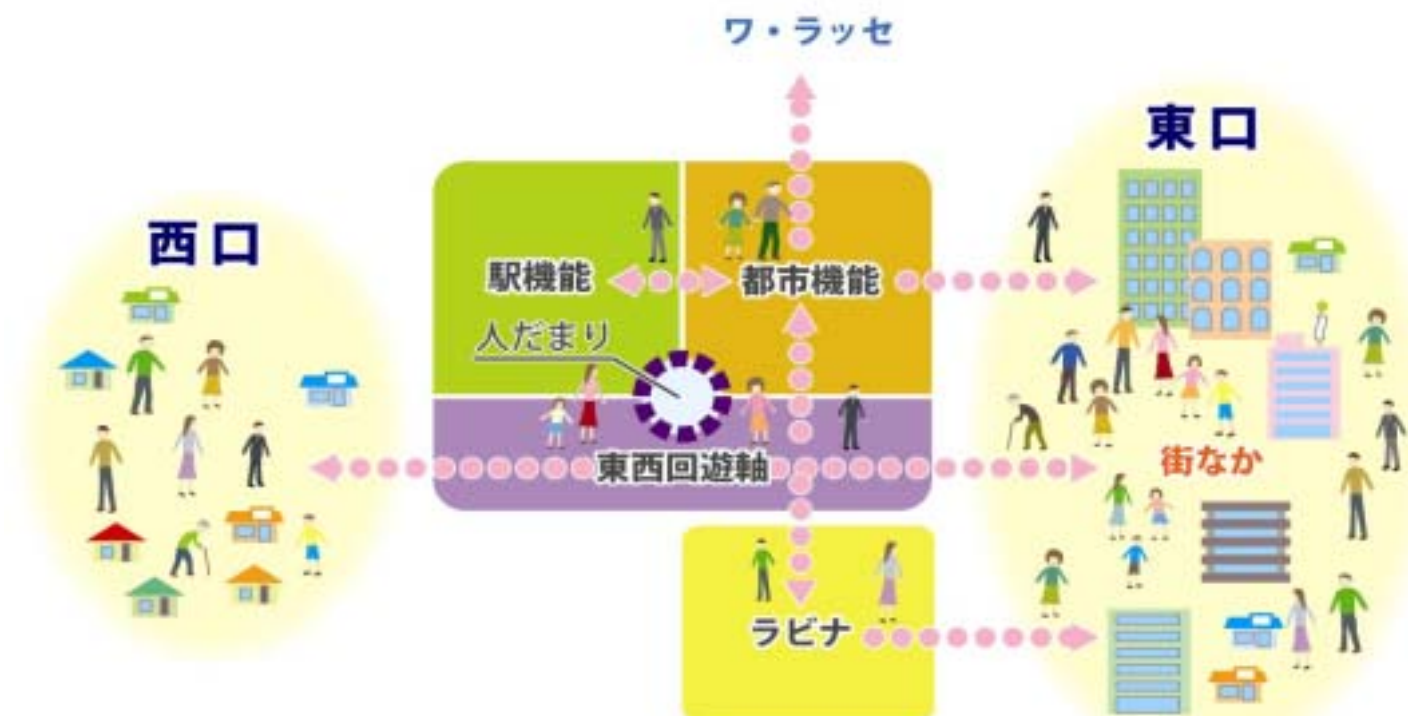


青森駅複合拠点プロジェクト

～海のみえる北の駅～

駅機能(駅舎)、都市機能(都市サービス施設)、東西回遊軸(自由通路)を一体的に展開

自然に人やにぎわいが集まる陽だまりのような「人だまり空間」を創出



青森駅複合拠点プロジェクト

- 駅機能(駅舎)**
 - 市民が誇れる「私たちの駅」
 - 駅や鉄道の利便性向上
 - ユニバーサルデザインの推進
- 東西回遊軸(自由通路)**
 - 東西市街地を結節する円滑な移動
 - 誰もが安全・安心・快適に移動できる回遊空間の形成
 - 海やまちの風景への配慮

- 都市機能(都市サービス施設)**
 - 官民の連携による多様な都市機能の整備
 - 商業サービス施設
 - 公共公益施設(再配置・集約化を基本)
 - 子どもを育む機能
 - 市民が交流活動する拠点機能
 - 固有文化などの情報発信機能
 - 行政サービス機能
 - 周辺施設との回遊性や眺望の確保

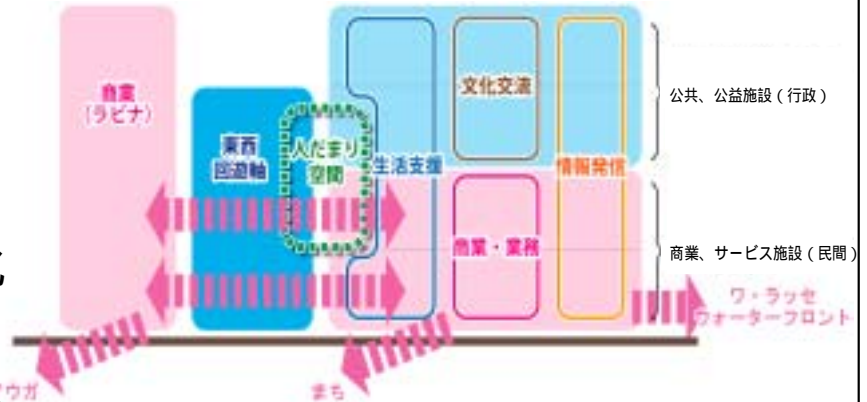
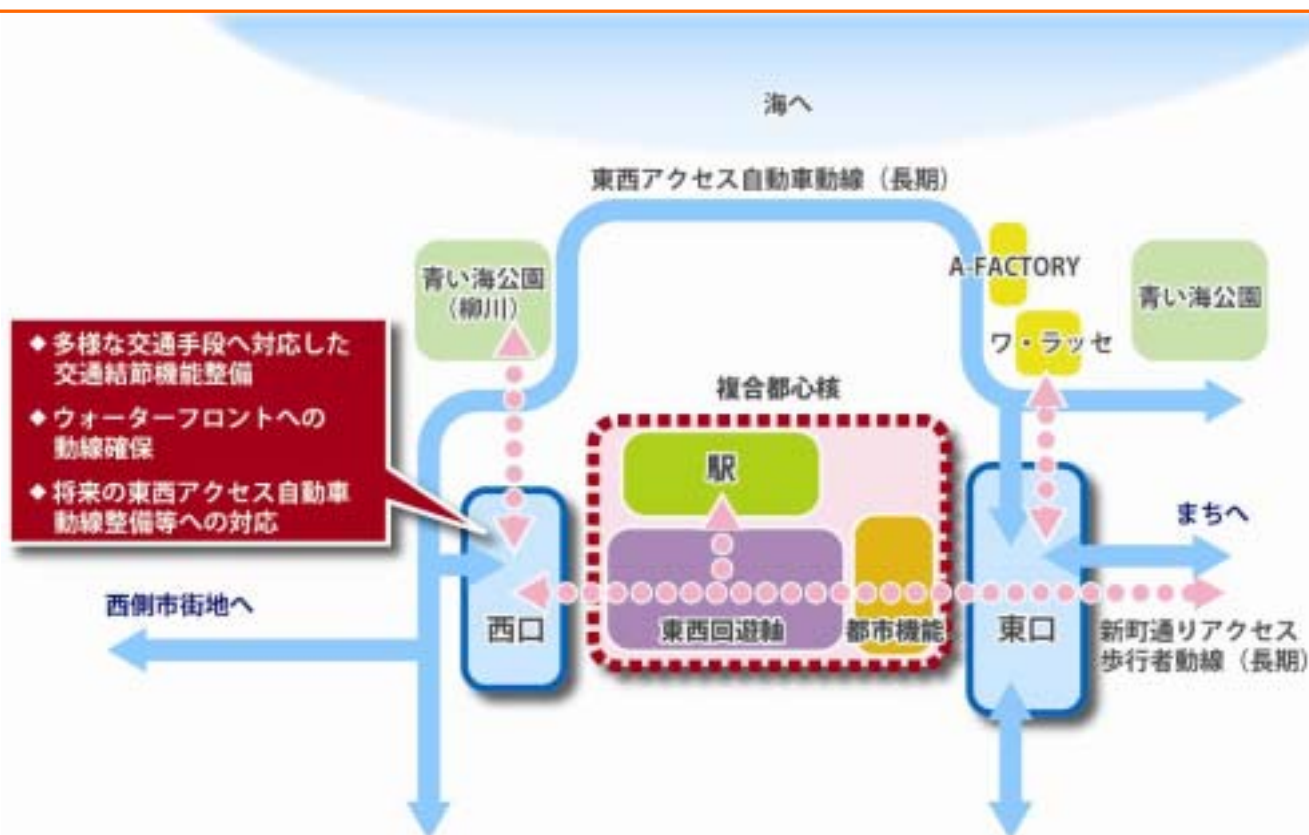


図 人だまり空間のイメージ

総合交通ターミナル充実プロジェクト

東口・西口を機能分担し、一体となって多様な交通手段に対応できる交通ターミナルを創出



まちづくりの基本方針

視点

いつでも誰にでもあずましく

青森市民・来訪者すべてにあずましい空間の創出

市民・青森への来訪者が多く集まる拠点として、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化を進め、青森らしい空間創出に向けた景観形成や地球環境への配慮等により、すべてのひとに**あずましい空間を創出**する。

共に創り・育てる

多様なまちづくり主体の連携・協働

駅周辺地区活性化の開発インパクトを周辺へと波及させ、にぎわいを継続的に創出するため、市民、事業者、行政、NPOなど、**まちづくりに係わる多様な主体の連携・協働**を図り、持続的に発展していくまちづくりの実現を目指す。

戦略

人とまちをつなぐ

駅を含めたエントランス空間の再構築

コンパクトシティの要としての都心機能強化を図るため、青森駅を街なか再生の装置の一つとしてとらえ、駅を中心とした複合都心核の形成と、都市内の総合交通ターミナルの充実を図ることにより、ウォーターフロント・東口・西口周辺地区を一体化する**エントランス空間を再構築**する。

駅・まちと海をつなぐ

駅・商店街・海を結ぶ回遊・連携軸の強化

駅・商店街・ウォーターフロントが一体となった魅力向上のため、東西市街地の連絡性の向上や地区内に集積する都市機能を結ぶ快適な回遊ルート形成により、交流、にぎわい、憩い等の多彩な魅力をつなぐ**回遊・連携軸を強化**する。

人と人をつなぐ

新たな魅力を創出する都市機能の強化

来訪者に様々なサービスを提供しにぎわいを継続的に創出して周辺への波及効果を高めるため、市民、企業、行政がエントランス空間の再構築、ネットワークの形成などをいかながら、交流・連携に向けた**様々なサービスを充実**していく。